

第 2 2 回
外国人による
日本語スピーチコンテスト

2013年2月16日（土）午後 1:00 ～4:30
ところ： 県民文化センター小ホール
主催： 公益財団法人 茨城県国際交流協会
共催： 茨城県

* 茨城県議会議長賞

トム ギブ (イギリス出身)

「日本で初めて父親になること」

一昨年(2019年)の12月、私の妻が妊娠しました。それをきっかけに日本とイギリスでは出産に関して、さまざまな違いがあるのに気付きました。

例えば、妊娠が分かり妻が「10ヶ月間大変だなあ・・・」と言ったとき、私は「うわ！日本人女性は妊娠してから出産までが10ヶ月もかかるのか！イギリスでは9ヶ月しかかからないのに！」と不思議に思いました。後で、妊娠の「1ヶ月」は日本人と外国人の数え方が違うと教えられて、ほっとしました。

イギリス人女性は妊娠中、基本的に「食べ放題」で、20～30キロ太る妊婦さんが少なくありません。一方、日本のお医者さんは妊婦さんに10キロ、時々7キロ以上は増えないように体重制限をします。

私の妻は妊娠中、つわりの吐き気にもかかわらず、アイスクリーム、特に抹茶味のスーパーカップに執着しました。私は先生の指導に合わせて、妻がアイスクリームを食べるのを厳しく制限しました。けれど、私は家に帰ってくるとキッチンのごみ箱から何回も空のスーパーカップを発見しました。

去年の8月6日、陣痛が始まり、病院に行きました。妻によると、陣痛は腰がくだるかと思うぐらい痛かったそうです。もしイギリスで出産するなら「無痛分娩」が一般的なので薬を自由に飲むことができます。ところが日本では「自然分娩」が普通ですから、妻は看護師さんに「すみません。痛み止めをもらえませんか？」と言ったとき、「薬を飲んだら、赤ちゃんはいつ出て来られるか分かりませんよ」ときっぱりと断られました。

いよいよ、妻は破水して分娩室に入りました。妻が分娩台に乗っている姿を見た時、私はあまりにも恐ろしすぎて、何をしてあげたらいいのか全く分かりませんでした。小さい声で「頑張れ！」と言って、妻の髪の毛をなでようと思いました。すると「邪魔！」と拒絶されてしまいました。この経験は世界中の立会いをするお父さんは良く分かると思います。

あっという間に可愛い女の子が無事に生まれて、私は涙が出るほど嬉しかったです。

現在イギリスでは生まれる子供の4人に1人が両親は国際カップルです。それにひきかえ、日本では30人に1人なので、こういう子供は「ハーフ」として特別な存在に見られます。「ハーフ」というのは悪いことばというわけではありませんが、娘は日本人とイギリス人の遺伝子が入っていますので、「ハーフ」ではなくて「ダブル」として見られてほしいと私は願っています。

どちらにしろ、私はこれから妻と共に子育てを一生懸命頑張っていきたいと思っています。